

開講科目名	臨床実習2				
成績入力担当	松本 理器	開講区分		単位数	
		後期		8.0単位	
ナンバリングコード		曜日・時限等	他(対面)	時間割コード	3M987

授業のテーマ

これまでの基礎および臨床医学の授業、臨床実習1の学修にて獲得した知識、技能、対人スキルを活かし、大学病院および地域の病院の内科、外科において主治医団の一員、student doctorとして診療に参加する。各診療科、4週間ずつの実習とし、継続的なクリニカル・クラークシップを行う。学生は指導医の指導・監視の下で一定の範囲内での医行為を実践することができる。この実習を通して、医師としての根幹となる【臨床研修開始時に必要とされる技能と態度】の獲得を目指す。

授業の到達目標

神戸大学医学部医学科コンピテンスⅠ、Ⅲ、Ⅳの下記コンピテンス項目を主な学習目標とする。

- Ⅰ-1 医師としての責任感を持ち、謙虚に自らを律して行動する。
- Ⅰ-2 医師としての業務に限らず、医師・医療人としての責務および社会からの期待を意識し適切に行動する。
- Ⅲ-4 人間の生涯にわたる行動と心理の特性を理解し、適切な対応と医療を提供できる。
- Ⅲ-5 国民皆保険の意義を理解し、保険診療に関する法令に従って、医療の経済性に配慮しながら診療を行うことができる。
- Ⅲ-6 高頻度または重要な疾患について、疫学・病因・病理・病態・症候・診断・治療・予後の知識を修得し、適切な診療ができる。エビデンスを吟味し臨床判断に応用できる。
- Ⅲ-7 患者の立場を尊重し、病歴を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行う。
- Ⅲ-8 網羅的に系統立てて効率的な身体診察を行い、所見を認識・記録し、適切な鑑別診断を行う。
- Ⅲ-9 基本的な臨床技能について、適応、実施方法、合併症等を理解し、適切な態度でこれを安全に実施できる。
- Ⅲ-10 患者の苦痛や感情に配慮しながら、患者と家族に対して誠実で適切な支援を行う。
- Ⅲ-11 診療録についての基本的な知識を修得し、問題志向型診療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。
- Ⅲ-12 患者の病状、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、医療チーム構成員と情報共有が出来る。
- Ⅲ-13 緊急を要する病態や疾病・外傷の基本的知識を修得し、医療チームの一員として救急医療に参画する。
- Ⅲ-14 慢性疾患の病態・経過・治療を理解し、医療を提供する場や制度に応じて、医療チームの一員として慢性期医療に参画する。
- Ⅲ-15 医療関連感染の予防対策を実践し、発生時の初期対応ができる。
- Ⅲ-16 医療における患者や医療者の安全を守るために、個人的・組織的な対応ができる。
- Ⅲ-17 組織や自身が実施している医療の質や安全管理について常に振り返り、その改善と向上を図る。
- Ⅳ-1 医療人としての倫理に関する基本的な知識を修得し、社会の変遷を踏まえつつ、常に自己の行動を律することができる。
- Ⅳ-3 医療者として常に利益相反が生じる可能性を認識し適切に対処できる。患者のプライバシーを尊重し守秘義務を果たす。

授業の概要と計画

本実習は対面で実施する。

神戸大学医学部附属病院及び関連病院の内科および外科において、各科4週間ずつ、計8週間のクリニカル・クラークシップを行う。患者さんの入院から退院までを通した診療を主治医団の一員として経験する。

神戸大学医学部附属病院における実習内容については、配布する手引きに記載する。

関連病院における実習内容については、実習先のプログラムに従う。

成績評価方法

各施設、各科の実習指導医、教員が評価を行い、最終成績はコーディネーターが決定する。

①実習評価表

②病歴要約（各科で1症例）、外科手術症例では手術記録も作成

・上記を総合して評価し、最終成績とする。

成績評価基準

- ・技能と態度については上記①を用いて評価する
- ・症例の包括的な理解、考察力については②を用いて評価する
- ・①②から臨床能力の獲得について総合的に評価する

履修上の注意（関連科目情報）

実習施設、診療科は事前に学生の希望により決定する。プログラムについては配布する手引き、BEEFに記載する。

事前・事後学修

医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）に準じた、診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（第1.0版）を読んでおくこと。

オフィスアワー・連絡先

チューターと各自連絡をとること。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

実習に合わせて、必要ある場合は、個別にお知らせします。

参考書・参考資料等

医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）に準じた、診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（第1.0版）（2022年12月）

授業における使用言語

日本語

キーワード

臨床実習、クリニカル・クラークシップ、関連病院